



雨の日は読書がいちばん



雨が多いこの季節は部屋で読書がいちばんです。雨降りや水、梅雨、傘などこの季節にピッタリな本もたくさんあります。憂鬱な天気も読書のパワーでしっとり落ち着いたリラックスタイムに大変身すること間違いなしです。



『雨の降る日は学校に行かない』

相沢沙呼/著 集英社文庫

学校生活に息苦しさを感じている女子中学生の憂鬱と、かすかな希望を描き出す6つの物語。

あなたは1人きりじゃない、そう心に寄り添う連作短編集です。



『言の葉の庭』

新海誠/著 角川文庫

靴職人を目指す高校生、秋月孝雄は雨の朝は決まって学校をさぼり、公園で靴のスケッチを描く。その公園で謎めいた年上の女性と出会った。雨と緑に彩られたひと夏を描く青春小説です。



『イーハトヴ詩画集 雲の信号』

宮澤賢治/詩 偕成社

宮澤賢治は童話とともにおびただしい数のきらめく詩を書いた詩人でした。画家の黒井健が「雲」をキーワードに21篇の詩を選び色鉛筆を主に独特な画法で描きあげた詩画集です。



太宰治



1909.6.19-1948.6.13

青森県出身の作家、本名は津島修治。『走れメロス』『斜陽』『人間失格』などの作品で知られています。

『文豪ナビ太宰治』

ナイフを持つまえにダザイを読め!!

新潮文庫/編 新潮文庫

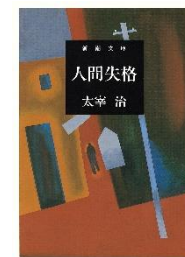
時代を超えて常に若者たちから支持される太宰治。わかりやすい評伝、名作の要約、音読したい名場面、人気作家のエッセイなど、太宰治の新しい魅力が発見できます。



『人間失格』

太宰治/著 新潮文庫

「恥の多い生涯を送って来ました」そんな身も蓋もない告白から男の手記は始まります。ひとがひととして、ひとと生きる意味を問う、太宰治、捨て身の問題作。



『少年少女日本文学館』

走れメロス・山椒魚』

太宰治・井伏鱒二/著 講談社

人間の信頼と友情をギリシャ古伝説の世界に託した『走れメロス』。山椒魚の悲しみをユーモラスに描いた『山椒魚』など、太宰治が師と仰いだ福山市出身の井伏鱒二との名作集。

